

事業名		国営かんがい排水事業	地区名	び 美 蔓
都道府県名		北海道	関係市町村名	おとふけちょう しかおいちょう しみずちょう めむろちょう 音更町、鹿追町、清水町、芽室町
事業概要	要	本地区は、北海道十勝総合振興局管内の河東郡音更町、同郡鹿追町、上川郡清水町及び河西郡芽室町の4町に位置する畑作及び酪農を主体とした4,056haの農業地帯である。 地区の農業は、かんがい施設が未整備で、かんがい用水は主として降雨に依存しているが、作物の生育期に必要な量が確保されていないため、恒常的な用水不足が生じている。 また、地区内の排水路は断面が狭小で河床が高く、降雨時及び融雪時には湛水、過湿被害を生じている。このような状況から、土地生産性が低く効率的な農作業の支障になるなど、農業経営は不安定な現状にある。 このため、本事業により貯水池及び用排水路を整備するとともに、関連事業により末端用排水施設等を整備し、土地生産性の向上、農作業の効率化を図り、農業経営の安定、地域農業の振興に資するものである。		
		【事業内容等】 受益面積 4,056ha（畑 4,056ha） 受益者数 215人 主要工事計画 貯水池 1箇所（新設） 用水路 60.9km（新設8路線） 排水路 17.9km（改修4路線） 国営総事業費 33,000百万円（平成25年度時点 34,980百万円） 工 期 平成5年度～平成30年度予定 （平成 5年度～平成27年度 工事期間） （平成28年度～平成30年度 施設機能監視期間）		
評価項目	評	【事業の進捗状況】 平成24年度までの進捗率は約90%である。		
		【関連事業の進捗状況】 関連事業は、末端用排水施設等を整備する道営畑地帯総合整備事業が実施されており、進捗率は約18%となっている。		
		【社会経済情勢の変化】 本地区の関係町である音更町外3町の平成17年と平成22年の5年間の農家の動向等の情勢変化をみると、以下のとおりである。 関係町の農業就業人口は、7,968人から7,514人に減少（△5.7%）し、産業別就業割合では20.5%から19.4%に減少している。 関係町の農家数は、2,111戸から1,936戸に減少（△8.3%）し、専業農家と第1種兼業農家を合わせた主業農家割合は97.8%から95.0%に減少している。 関係町の経営耕地面積は、62,921haから62,612haに減少（△0.5%）しているが、1戸当たり平均経営耕地面積は29.8haから32.3haに増加（8.4%）している。 関係町の農業産出額は784.1億円から752.8億円に減少（△4.0%）し、農業産出額、製造品出荷額及び商品販売額の合計に占める農業産出額の割合は19.8%から18.3%と減少で推移している。 以上の結果、関係町においては農業就業人口及び農家数が減少しているものの、地域経済における農業産出額の割合に大きな変動がなく、農業の地域経済における地位に変化はない。したがって、本事業は地域農業の振興及び地域経済の安定に資するものとして期待がもたれている。		

	【事業計画の重要な部分の変更の必要性の有無】 事業の施行に係る地域 現時点で受益地域を変更する必要はない。 主 要 工 事 計 画 現時点で主要工事計画を変更する必要はない。 事 業 費 平成25年度の国営事業費は34,980百万円であり、現計画の33,000百万円から工法変更等の要因により6%の増となっている。															
評価	【費用対効果分析の基礎となる要因の変化】 本地区では、作物生産量が増加する効果、営農経費が節減される効果、維持管理費が増減する効果、従来の施設機能が維持される効果等を主な効果として見込んでいる。 費用対効果分析の基礎となる基幹作物の小麦、ばれいしょ、てんさい等の作付面積については、現計画時点と比較して変動はないが、作物単価、収量等については、現計画時点と比較して変動がみられる。 関係町の農業振興計画では、基幹作物の生産体制として、排水対策等を行い生産基盤の整備を進めるとともに、基幹作物と野菜の適切な組合せにより、安定した生産体制の確立と品質の向上、生産コストの低減に努め、地域農業の発展を目指すこととしており、現計画の営農計画に対して大きな変化は認められない。															
項目	以上のことを踏まえ算定した費用対効果分析結果は以下のとおりである。 <table><tr><td>妥当投資額</td><td>(B)</td><td>43,240百万円</td><td>(現行計画</td><td>39,195百万円)</td></tr><tr><td>総事業費</td><td>(C)</td><td>41,193百万円</td><td>(現行計画</td><td>37,486百万円)</td></tr><tr><td>投資効率</td><td>(B／C)</td><td>1.04</td><td>(現行計画</td><td>1.04)</td></tr></table> 注) 妥当投資額、総事業費には関連事業を含む。	妥当投資額	(B)	43,240百万円	(現行計画	39,195百万円)	総事業費	(C)	41,193百万円	(現行計画	37,486百万円)	投資効率	(B／C)	1.04	(現行計画	1.04)
妥当投資額	(B)	43,240百万円	(現行計画	39,195百万円)												
総事業費	(C)	41,193百万円	(現行計画	37,486百万円)												
投資効率	(B／C)	1.04	(現行計画	1.04)												
目	【環境との調和への配慮】 取水施設の整備にあたっては、生息魚類の移動を阻害せず、かつ経済的な集水埋渠方式を採用している。導水路の整備にあたっては野生動植物の生息・生育範囲に配慮した路線選定や樹木を伐採した範囲での植栽を実施している。 また、関係町における田園環境整備マスタープラン等を踏まえ、貯水池の整備にあたっては周辺景観に配慮した植樹、排水路の整備では階段式落差工を設置することにより魚類の生息環境の保全に配慮している。															
	【事業コスト縮減等の可能性】 取水導水路の工事では、トンネル工区間においてミニシールド工法の採用や河川横断推進工について立坑（発進坑）を併用することにより、事業コストの縮減を図っている。															
	【関係団体の意向】 北海道は、「事業着工から20年経過していることから、本事業の効果が十分発現されるよう、早期完了を目指す必要がある。今後、国営事業により、かんがい用水の利用が可能となることから、事業主体として、畑地かんがい用水の利用促進に向け、関係機関と連携の上、積極的に取り組む必要がある。」としている。 関係各町は、土地生産性の向上及び農業経営の安定が図られる本事業は必要であると認識している。また、必要な事業費確保を望むとともに、今後ともコスト縮減に努めつつ効率的な事業の執行による効果の早期発現を望んでいる。															

【評価項目のまとめ】

本地域の農業は、道内でも有数の畑作・酪農地帯であり、北海道における小麦、ばれいしょ、てんさい等の生産の中核をなし、地域経済を支える重要な産業となっている。

しかし、農産物価格の低迷、農家戸数の減少など農業を取り巻く環境が悪化しており野菜等の収益性の高い作物の導入を推進するとともに低コストで安定的に生産する体制づくりが必要となっている。

野菜類の生産において、増収や品質向上はもとより出荷時期の調整などにもかんがい用水が必要であるが、本地域は、作物の生育に必要な用水が確保されていないため、生育障害や干ばつなどが発生している状況である。また、地区内の排水路は、断面が狭小で河床が高く、降雨時及び融雪時には湛水及び過湿被害が生じている。

このため、本事業は、美蔓貯水池及び用水路の建設による畑地かんがい用水の安定的供給と、排水路の整備による湛水・過湿被害の解消を図り、併せて関連事業により末端施設を整備し、土地生産性の向上、農業経営の安定化を図り、地域農業の振興を図ることを目的に事業を進めており、必要性に変化はない。

また、本事業は、環境との調和への配慮及びコスト縮減に努めつつ進捗を図ってきたところである。関係団体からは関連事業とも連携を図り、今後ともコスト縮減に努め、早期に効果を発現することが求められている。

【技術検討委員会の意見】

美蔓地区は、土地利用型の作物を中心とした営農が展開されてきたが、収益性の高い野菜等の作物を導入・拡大するため、かんがい用水の安定的な確保と排水改良について強い要望があると認められる。

本事業は環境との調和への配慮に基づき整備が進められている。完成した施設は国から町へ管理委託される予定のため、建設事業費のみならず維持管理費のコストについても縮減に向けて検討されたい。

また、効果発現の観点から、関連事業と一体的な整備を進められたい。

【事業実施方針】

今後ともコスト縮減に努めるとともに、関連事業との一体的な整備など関係機関等との連携に努め、効果の早期発現に向けて計画的に事業を推進する。

<評価に使用した資料>

農林水産省統計部(平成19年7月)「2005年農林業センサス第1巻北海道統計書」

農林水産省大臣官房統計部(平成24年1月)「2010年世界農林業センサス第1巻都道府県別統計書」

農林水産省北海道農政事務所統計部 「北海道農林水産統計年報」北海道農林統計協会

平成17年国勢調査(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/001ppc/index.htm>)

平成22年国勢調査(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/001ppc/index.htm>)

平成21年工業統計調査確報(北海道分)(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/010cmn/index.htm>)

平成17年工業統計調査確報(北海道分)(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/010cmn/index.htm>)

平成19年商業統計調査結果確報(北海道分)(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/023ccm/index.htm>)

平成16年商業統計調査結果確報(北海道分)(<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/023ccm/index.htm>)

農林水産省構造改善局計画部(監修)(1988)「[改訂]解説土地改良の経済効果」大成出版社

国営美蔓土地改良事業変更事業計画書

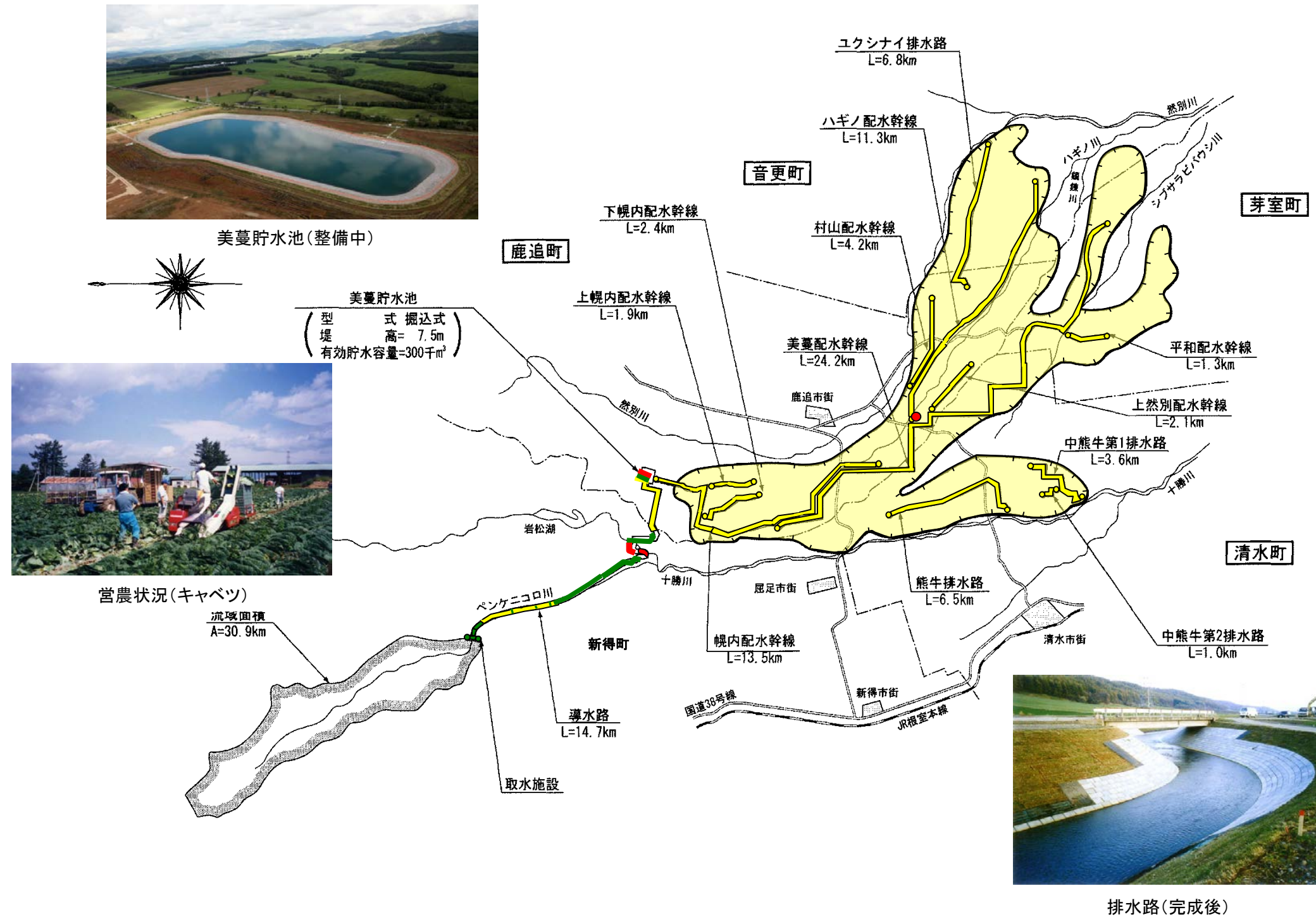
国営かんがい排水事業 美蔓地区事業成績書(平成24年6月)

国営かんがい排水に附帯する関連事業の全体管理調書(平成24年度版) 美蔓地区(平成24年1月)

平成25年度 総事業費改訂調書 美蔓地区(平成24年7月)

一般公表されていないものについては、北海道開発局帯広開発建設部鹿追地域農業開発事業所調べ(平成24年)

国営かんがい排水事業 美蔓地区 事業概要図



北海道	
受益面積 (ha)	
受益面積 (田)	—
受益面積 (畑)	4,056
凡例	
受益面積 (畑)	
取水施設	
幹線水路	
貯水池	
平成23年度迄	
平成24年度	
平成25年度要求	
平成26年度以降	